



鯉学ニュース

NO.60 2013年8月

食品栄養科、「校内企業説明会」で就活キックオフ

本学の食品栄養科は6月20日、給食事業の大手で、コントラクトフードサービスのパイオニア株式会社メフォスの茨城事業部の協力のもと、「校内企業説明会」を開催。この説明会は食品栄養科のキャリア教育の一環として実施されたもので、同科の2年生にとっては25年度就職活動のキックオフとなりました。



学校やオフィス、病院等への給食事業を全国展開するメフォスには、いままで複数の本学卒業生が就職してきました。その実績を踏まえ、企業説明会では、同社茨城事業部の寺島武志主査(職員採用担当)が、企業の求める人材や採用面接での心構え、就職活動にむけて磨くべきスキルなどについて講演を行いました。また、2年前に食品栄養科を卒業してメフォスに就職した菅野美土里さん(現在、筑波記念病院へ配属、福島県出身)も講師として参加。就職直後における新人栄養士としての業務内容や5年後、10年後に求められるスキルアップ、職場内研修や同期とのつながりなど、多くの有益な情報と後輩たちへのていねいな助言をいただきました。

茨城県をはじめ全国各地の企業や団体、教育施設等へ就職した本学卒業生に対する雇用者側の評価が高まるなかで、福祉施設や病院、食品関係企業等からの求人件数が年々増加。そうした中で、「すべての学生を希望どおりの職場へ就職させてやりたい」。それが教員たちの願いです。ていねいな個別指導を重視する同科の浅津竜子准教授は次のように述べています。「今回の企業説明会の直後、メフォスは、本学の要請に基づき、同社へ就職希望する学生数名に対して筆記・面接の一次試験を校内で実施して下さいました。一次試験は全員合格。内定決定が楽しみです。本学全体の就職活動が本格化するのは夏から秋。本年度は100%の就職率をめざし、学生と教員が一体となった取り組みをいっそう強めていきたい」。(下段の表参照)

(表) 平成24年度卒業生の就職率(就職・進学希望者に占める就職・進学者の割合)と就職・進学先

食農環境科 (就職率:94.6%)

JA・農業関連企業 40%	就農・生産法人・ 農業研修 23%	一般企業・ 他 8%	本学研究科等 への進学 29%
------------------	----------------------	---------------	--------------------

食品栄養科 (就職率:97.0%)

社会福祉施設・児童福祉 施設(保育園含む) 34%	病院・医療施設・ 一般企業 28%	給食・食品 関連企業 25%	進学・自営・ 他 13%
------------------------------	----------------------	-------------------	-----------------

★ 厚生労働省の就職状況調査結果によると、就職希望学生に占める就職者の割合(就職率、平成25年4月1日現在)は、大学卒93.9%、短大卒94.7%。本学の就職・進学率は食農環境科で94.6%、食品栄養科で97.0%。

食農環境科、初の「新規就農啓発講座」を開講

本学は5月11日、公益財団法人茨城県農林振興公社から講師を招いて「新規就農啓発講座」を開講。食農環境科と研修課の60名近い学生が参加しました。

政府は現在、年間2万人の新規就農者を確保するため、鯉淵学園などの農業専門学校等で学び、卒業後の「独立就農」や農業生産法人での「雇用就農」をめざす学生に対して年間150万円の「青年就農給付金(準備型)」を交付しています(同給付金は、奨学金とは異なり、「雇用就農」等で卒業後に3年以上就農すれば返済不要)。本学は、卒業後の就農を計画する学生に対し、入学直後から給付金の申請手続きの説明会を開催するなど、給付金の受給・活用を積極的に指導してきました。その結果、都市部の高校普通科卒の学生を含め、現在、多くの学生が給付金を受給しながら農業技術や農場経営等について学んでいます。

新規就農者の促進と地域農業の活性化をすすめる茨城県農林振興公社は、給付金を受給する学生の割合が他の農業専門学校を大きく上回る鯉淵学園の実態を評価し、初の「新規就農啓発講座」を積極的に支



公社専門官との個別面談に臨む就農志望の女子学生。

援。同公社が派遣した講師と専門官からは、就農への心構えや農業生産法人への就職に関する講演に加え、個別面談を通じた学生への有意義な指導をいただくことができました。

本学は、食農環境科の学生に対する就職支援活動の一環として、こうした取り組みをさらに強めていくため、本年秋には、農業生産法人の経営者を招いた講座を開催するなど、「新規就農啓発講座」の充実強化を計画しています。



就農にはしっかりとした心構えが必要だと訴える茨城県農林振興公社の講師。

資格取得の試験合格対策として「特別準備講義」を開講

一方、食農環境科では、学生の就職活動を支援するための資格取得指導が強められています。25年度は、小型車両系建設機械やフォークリフト、刈払機の作業免許の資格取得試験と日本農業技術検定試験を、6月から7月の間に学内で連続実施。資格取得をめざした学生の挑戦が本格化してきました。

8月に入ると毒物劇物取扱者の資格試験が実施され、夏休み明けから来春にかけては、家畜人工授精師や家畜体内受精卵移植師、大型特殊自動車運転免許、ファイナンシャルプランナー技能士など、多くの資格取得試験が次々に行われます。担当教員は試験合格対策として「特別準備講座」を集中的に開講。資格取得の実現にむけた学生たちの懸命な受験勉強はさらに続いています。

きめ細かい個別指導を通じて数多くの学生にさまざまな資格を取得させてきた研修課の責任者、小沼和重教授は、「農業生産法人などへの雇用就農を計画する学生にとっては、資格取得が必要条件となる。小型車両系やフォークリフトの作業免許、農業技術検定など多くの資格試験が本学のキャンパス内で開催されており、こうした資格取得のチャンスを積極的に活用して、できるだけ多くの資格を在学中に取得してほしい」と、学生たちに呼びかけています。

ディズニーランド・バスハイクで「学んだ」学生たち

6月15日(土)、学生自治会の企画で「東京ディズニーランド・バスハイク」(自由参加)が実施され、35名の学生が参加しました。当日、鯉淵学園を出発したのは早朝5時半。バスの中から学生たちは大いに盛り上がり、東京ディズニーランドではさまざまなアトラクションやパレード、ショッピングなどを満喫。午後8時過ぎ、全員無事に学園帰着となりました。

バスハイク実行委員の福濱由美子さん(食農環境科2年、沖縄県出身)の報告によると、今回のディズニーランド・バスハイク、これだけで話しは済みません。実はこの企画、食農環境科JAコースでのある「講義」とつながっていたのです。

その講義とは、昨年度から本学の客員講師に就任した高光治秀講師(株式会社組織デザイン・リーダー 元気塾推進本部長、元スイス農林中金社長)による農協経営管理論。日本生産性本部認定の経営コンサルタントでもある高光講師は、東京ディズニーランドの開設以来、その事業方式に注目して50回以上も現地を「視察」し、その研究成果をコンサル事業に活かしてきました。そしてJAコースの講義でも、企業における人材育成の一つの実践事例として、東京ディズニーランドの顧客対応を取り上げたのです。



その中で高光講師は、「年間2750万人以上の来場者を迎える現場の正社員は2200人あまり。彼らを支え、ともに働くのが2万人近いアルバイト従業員」、「ディズニーランドの企業理念は来場者への夢と感動、喜びと安らぎの提供。ディズニーランドを経営する会社は、(正社員やアルバイトの採用に際し)こうした企業理念に共感できる人材、そしてテーマパークや接客が好きな人材を選び抜き、企業理念を実現するため、アルバイト従業員も含めて徹底した人材育成に取り組む」実態などを紹介し、JA組織における経営

理念と人材育成の重要性を強調しました。

東京ディズニーランド・バスハイクの参加者には、高光講師が講義で使った資料(「東京ディズニーリゾートを深く学ぶための3択問題」など)のコピーが事前に配布され、学生たちは十分に「予習」をした上で入場。その結果、参加した学生たちの感想の中には次のようなものが含まれたと報告されています。

「東京ディズニーランドには来場者を飽きさせない工夫が至るところに施されていて、アトラクション以外でも楽しむことができた」、「授業で学んだ企業経営の具体的な実態を知ることができた。将来、農業分野において同様のことに挑戦してみたい」。



高光治秀講師:「学生にとっては楽しいリフレッシュとなった今回のバスハイク。そこに少しの『学び』を入れたのは、さすが鯉淵学園!」

◆ Campus 短信

多様な学外研修で現場の実践を学ぶ食農環境科の学生たち：

7月11～12日、食農環境科の2年生は学外研修で食と農の科学館や東京都食肉市場、東京都大田市場、都内の各県アンテナショップ、明治牛乳工場（茨城県守谷市）などを訪問し、特に農畜産物の市場流通の実態を調査しました。学生たちが最も強い関心を持って臨んだのは日本最大の大田市場見学。二日目早朝に着いた市場では、卸売市場の果たす役割やセリ人の働きなどについて、東京青果株式会社の担当者から詳しい説明を受けました。

鯉淵学園の食農環境科では、集中的な講義と農場実習に加え、学外研修による現場の実践学習を伝統的に重視。その学外研修先は、多様化する学生のニーズを踏まえ、広範囲に及んでいます。同科1年生にとって最も重要な学外研修は全国各地へのJA派遣研修（夏期休暇中の20日以上）。2年次には、各専攻別にわかれ、20日以上にわたって農家・生産法人での研修（農業経営体派遣実習や有機農業派遣実習など）が続きます。さらに、希望する学生には、本学とタイ農業協同省・タマサート大学との協定に基づくタマサート大学短期留学の機会が与えられます。教務部長の長谷川量平教授は、「現場での実践学習を通じて、学生たちは着実に成長して帰ってきてくれる。今後も専門学校としての強みを発揮していくため、あらゆる可能性を追求していきたい」と、学外研修の強化に意欲を示しています。



大田市場の関係者の説明を聞く食農環境科の2年生たち

大幅に増える「農業体験学習」の園児と小中高生：



さつまいもの苗を上手に植える幼稚園の園児たち

立堀原小学校の「とうふ作り」、水戸市見和町子供会の「ソーセージ作り」、水戸農業高校生の「食肉加工体験」など、体験側の「要望」も多様化・専門化。「50ヘクタールを超える広大な本学のキャンパスで、より多くの子供たちが、収穫や加工を楽しく体験しながら農業の大事さと食べ物大切さを学んでほしい」と願う本学は、農業体験学習の受け入れを社会貢献活動と位置づけ、増え続ける来園者への対応をさらに強める準備をすすめています。

鯉淵学園は、「農業体験学習」の幼稚園児や小中学生、高校生を毎年2000名以上受け入れ、田植えやジャガイモ掘りなどの農業体験を通じた食農教育を実施してきましたが、こうした体験学習の来園者が年々増えています。特に本年度は、水戸市内の幼稚園や小中学校に加え、東京都内の幼稚園や茨城県内の学校からの受け入れ要請が増加。食育を重視する学校側の期待に応え、本学は苗の植え付けから収穫までさまざまな機会の提供に取り組んでいます。

8月から12月にかけては、笠間市立岩間中学生140名の農業体験や、水戸市立笠原小学校5年生の「稲刈り・炊飯・おにぎり作り」、同市

茨城県所管／農業団体助成／厚生労働大臣指定
鯉淵学園農業栄養専門学校

〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町 5965
☎ 0120-831-464 FAX 029-259-6965
ウェブサイト：<http://www.koibuchi.ac.jp>
E-mail: kyoumu@mail.koibuchi.ac.jp

(お問い合わせ等はウェブサイトや携帯・スマートフォン対応のモバイルサイトからも受け付けています。QRコードを活用ください。)

